

『多言語多文化—実践と研究』の理念

2007年9月13日

東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター

『多言語多文化—実践と研究』は、既存の学問分野の枠組みをこえて多言語・多文化社会を多面的に理解する視点や、研究者と実践者の協働をつうじて研究成果の意義を社会に問いかけていく姿勢をもった研究を広く世に問うていく。本誌は現代日本における多言語・多文化化を直視し、それと切り結んでいこうと試みるあらゆる領域の執筆者による、次のようなアプローチからの論稿を掲載することで、多言語・多文化社会研究におけるひとつの里程標となることを目指すものである。

(1)多言語・多文化社会において現前する諸課題に取り組む実践的研究

今日、ますます多くの国民国家が多言語・多文化化していくなかで、対立や摩擦、差別、格差と不平等、文化・アイデンティティの軋轢といった多くの社会的課題が指摘されている。多言語・多文化社会に関わる実践者・研究者にとって、そのような現前する諸課題を直視し、その対処法を模索することはひとつの大きな使命である。

(2)多言語・多文化社会の背景と構造を分析する批判的研究

多言語・多文化社会の問題は、目の前に現れている現象だけではない。いまはまだ表面化していない潜在的な課題や、その背後にある社会構造やシステム、社会的意識、言説やイデオロギーをあらわにし、既存の社会のあり方そのものを批判的、理論的に問い直すことも、多言語・多文化社会研究の大きな役割である。

(3)多言語・多文化社会についてのグローバルな視点からの比較研究

多言語・多文化化は全世界的なグローバリゼーションの拡大・深化の一環として起こっている。それゆえ日本と諸外国の様相を比較することで多言語・多文化化という社会・文化変動の全容を明らかにすることも重要である。